



從四位勳四等和田維四郎敘勳ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正九年十二月二十日

内閣總理大臣原敬



内

閣

大正九年十二月二十日附施行



賞勳局第五三八八號

功 一三

五月二十

大正九年十二月二十日

内閣書記官



内閣總理大臣



賞勳局總裁



從四位勳四等和田維四郎儀ハ明治八年官府

ニ出仕以來諸官ニ歷任シ勤勞尠カラズ就中明治

十九年農商務省地質局長ニ任セラレ専心地

質調査改善ヲ圖リ同二十二年鑛山局長ヲ兼子

全カラ鑛山ノ開發地質ノ調査ニ注キ日本坑法ヲ

改正シテ鑛業條例ヲ制定セララルニ與リテカアリ

其後製鐵所長官トシテ製鐵事業ノ發達

賞勳局

ニ盡瘁シ能ク其任務ヲ完ウシ退官後明治三十

九年ヨリ同四十三年八月韓國併合ニ至ルマテ韓

國政府ノ顧問ト爲リ専ラ鑛業ニ關スル事

務ヲ擔任シテ鑛業ノ發達進步ヲ圖リ又鑛

山懇話會及金屬鑛業研究所ヲ創立シ同

會ノ顧問又ハ所長ニ推サレ拮据經營今日ニ

至リ本邦鑛業ノ進步發達ニ貢獻スル所尠

カラサル者ニ候處目下病氣ニ罹リ危篤ニ瀕シ

タル趣ニ付此際特ニ勳二等ニ叙シ瑞寶章ヲ

授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

作記

從四位勲四等 和田維四郎

右ハ明治八年官府ニ出仕以來内務省地理局地質課長心得、農商務省農務局地質局長、農商務省權少書記官、農商務省地質局長、農商務省鑛山局長兼東京帝國大學理科大學教授、製鐵所長官等ノ諸官ニ歷任シ勤勞不尠就中明治十九年本省官制ヲ改正シテ地質局ヲ設置セラルルヤ其局長ニ任セラレ拮据職務ニ服シ精

農 商 務 省

勵部下ヲ指揮シテ專心地質調査ノ改善ヲ圖リ又鑛山局長ニ任セララルヤ我國鑛業ノ幼稚ナルヲ憂ヒ全力ヲ鑛山ノ開發地質ノ調査ニ注キ日本坑法ヲ改正シテ鑛業條例ヲ制定シテ鑛業ノ發達並鑛業行政ノ基礎ヲ定メ其後製鐵所長官ニ再任シテ製鐵事業ノ發達ニ盡瘁シ能ク其任務ヲ完ウシ公務ヲ奉スルコト前後二十二年餘其勲勞殊ニ尠カラサルノミナラス退官後明治三十九年ヨリ同四十三年八月韓國併合ニ至ル迄同國政府ノ顧問ト爲リ專ラ

鑛業ニ關スル事務ヲ擔任シ鑛業專門技術者ヲ推薦シテ最新ノ學問技術ヲ應用シテ地質及鑛床ノ調査ヲ開始シテ鑛區ノ整理ヲ遂ケ又同國鑛業法ヲ改正シテ鑛業ノ發達進歩ヲ圖リ其功績不尠加之朝鮮鑛業會ヲ創設シテ其名譽會頭ニ選マレ益々斯業ノ振興發展ニ努力シ朝鮮鑛業界ニ新面目ヲ開キ又鑛山懇話會及金屬鑛業研究所ヲ創立シ同會ノ顧問又ハ所長ニ推サレ拮据經營今日ニ至リ本邦鑛業ノ進歩發達ニ多大ノ貢獻ヲ爲シ我國鑛業界ノ重鎮トシテ功績顯著ナル者ニ候處目下重症ニ罹リ昨今危篤ニ瀕シ居候ニ付テハ前記ノ功勞ヲ録セラレ生前ニ於テ特ニ相當勲等進級ノ御詮議相成度別紙功勞書並履歷書相添此段及稟請候也

大正九年十一月三十日

農商務大臣男爵山本達雄



内閣總理大臣原

敬殿

功勞書

従四位勲四等 和田維四郎

本邦地質調査事業の創設

本邦地質調査事業、和田維四郎獨人ヲナウマシト共ニ建議ヲナシ、談建議、基キ明治十年之カ準備ニ着手シ翌十二年ヲ和田維四郎全般ノ監督ニ任シ「ナウマシ」技術方面ヲ擔當シ事業ヲ開始シタリ、然ルニ未ダ本邦ノ經驗ナキ新事業ナルヲ以テ調査上ノ困難名状ス（ハカウサルモノアリテ「ナウマシ」奉職中ノ成績豫期ノ如クナラス、依テ和田維四郎ハ外國人ニ據ラシテ本事業ヲ遂行セサル（ハカウサスト）ヲ主唱シ明治十八年歐洲ヲ歸朝後（前年歐洲派遣）技術方面ノ監督ヲモ擔當シ遂ニ地質調査事業、全ク本邦人ノ手ニ歸スルニ至リ、明治二十年頃、調査事業大ニ進捗スルト共ニ其功果「一般ニ認識セラル、ニ至リ、明治廿六年退官スルニ至ル」テ各般ノ監督、任セリ、實ニ本邦ニ於テ地質調査事業ノ創設及其基礎、全ク此ノ時ニ成シルモノニシテ其ノ功績著大ナリトス

農商務省

鑛業條例の制定

日本坑法、明治六年ノ發布ニ係リ、當時ノ現況ニ應ジ制定セラルシモ、其後、未年月ヲ經過シ社會及鑛業ノ發達進歩ヲナシ、時世ニ適應セザルニ至リ、同法ノ主義凡テ鑛物ヲ政府ノ所有トシ人民ニ唯其下據ヲ許スモノナリ、從テ同法中ノ規定ハ皆此ノ主義ニ基カサリ人民

ノ權利薄弱ニシテ事業上ノ秩序亦甚ク嚴シ且鑛業ノ
監督ニ係ル規定不完全ニシテ坑法發布ノ當時ニ比シテ教
信ノ發達ヲ爲ス鑛業ノ實状ニ應ズ能ハス又公益及
他ノ所有ノ侵害ヲ保護スル途チ行政上一目ニ默認スルカ
カント以テ明治廿三年法律第百八十七号ヲ以テ鑛業條例ヲ
制定セシムニ至リ當時鑛山局長トシテ專ラ同條例制定
ノ任ニ膺リ深ク我國ノ現況ニ鑑ミ亦實業者ノ意見ヲ諮
詢シ尙ホ實業者ヲシテ地法律ニ應ズル準備期日ヲ與フ
爲メ其實施ニ二年ノ猶豫ヲ與ス最モ我國ニ適應ノ
法律ヲ制定セシムル途チ同廿五年六月ヲ以テ之カ實施
ヲ見ルニ至リ抑モ該條例ニ鑛業上國民ノ權利ヲ確定
シ鑛業ノ所有ト土地所有トノ分界ヲ明シ互ニ侵害スルコト
ナカシメ公安保護ノ道ヲ設ケ人命ノ安全ヲ維持シ以テ益

農商務省

製鐵事業

製鐵所ニ於テ原料鉄鑛ハ最初專ラ内地ノ産鑛ニ據
ルヲ原則トスル方針ナリシカ和田組四郎製鐵所長官
ノ職ニ就キヤ偶々支那大冶鉄山ヲ調査シテ獨逸人ノ
調査報告書ニ依リテ同鉄山ノ鑛量甚ク豊富ナルコト
及ヒ若シ之ニ手ヲ著ケサレハ外國人カ同山ノ鑛石ヲ利用シテ
上海附近ニ一大製鐵所ヲ建設スルニ至ルヤニ難計狀況ヲ
察シ斯クテハ折角萌芽ヲ棄セトス我製鐵業ハ爲メニ非

常ノ打撃ヲ受ケ桑達ノ阻害セラル、ノコトス延テ或ハ國
防上ニ影響ヲ及ホスヘキヲ慮リ當時上海總領事代理
小田切萬壽三助ヲ漢冶萍公司ノ前身漢陽鐵廠
盛宣懷ノ意ヲ取次キ和國製鐵所長官ニ鐵鑛供給ノ
申出アリシヲ幸ヒ其機ヲ失ス自ラ支邦ニ航シ日本興業
銀行ヲノ借款契約纏ヌト同時ニ鑛石購買契約ヲ締
結シ大政鑛石輸入ノ端ヲ開キ以テ今日ニ及リ爾後逐年
増加ス國內鐵鋼ノ需要ニ對シ製鐵所カ行ヒタス數次ノ
擴張ニ當リ原料供給上聊カノ支障不便ヲ感セシメス就
中日露戦争及今回ノ大戦ニ當リ我製鐵所カ全能力
ヲ拏ケテ時局ニ處シ其責務ヲ完ウシ以テ國家ニ貢獻シ
又製鐵業上最モ重要ナル石炭ノ供給ニ関シ夙ニ見テ信ス
又製鐵業上最モ重要ナル石炭ノ供給ニ関シ夙ニ見テ信ス

東 商 務 省

アリ早クモ優良ナル二瀨炭山ヲ買収シ需用ノ大部分ヲ
自家炭山ヲ供給スルニシテ戰時中方外ノ高價ヲ以テ賣
買セシムル石炭ノ非常ノ廉價ヲ以テ使用スルニシテ得経理
上ノ利得ハ勿論作業上ニ與ヘタリ利便ハ實ニ大ナルアリ
尚近リ採掘ノ著手セントス赤谷鉄山ノ如キモ和國製鐵
所長官努力ノ結果得タルモノニシテ朝鮮ニ於テ所屬鐵
山ニ次リ本所唯ノ鐵山ナリ有事ノ日ニ於テ最モ頼リト
スヘキモノナリ

在職散テ取モサリシモ創業ノ際最モ困難ノ時代ニ居リ
以上原料鑛山ノ獲得ニ盡瘁シ製鐵所カ大ニ障害
ヲ受ケスレテ今日ノ桑達ヲ見猶將來時勢ニ應シテ相當
ノ進展ヲ為シ得ルノ基礎ヲ築キタス其ノ勲勞詢ニ大ナリ

ト謂フヘシ

農商務省

位勳	功學	位爵	本籍	出生地	年 號	月 日	官 記	辭 令	及 其 他 事 故	官 公 署
			福井縣遠敷郡小浜	福井縣遠敷郡小浜	明治八年	十二月五日	學務課江相	在任	月金四拾円交付候事	文部省
			福井縣遠敷郡小浜	福井縣遠敷郡小浜	明治九年	二月廿八日	本務	餘暇東京開成學校製作學教場へ出勤		左
					明治十年	八月十一日	當校教員	在任	月金四拾円可交付可事	東京開成學校
					明治十年	九月十一日	當館	並勤申付候事		東京博物館
					明治十年	三月廿六日	自今	教場助手與可相心得事		東京開成學校
					明治十年	四月十四日	東京大學理學部	在任	月金四拾円交付レ	東京大學
					明治十年	九月廿八日	内閣勸業博覽會	審査官	申付候事	内務省
					明治十年	十月二十日	雇中	月金四拾五円交付候事		東京大學
					明治十年	二月七日	紅羽二重	志足	自羽二重 志足	
					明治十年	二月六日	審査事務	勳励候付為其實下賜候事		内務省
					明治十年	五月十三日	内務省御用	執兼勤申付候事		文部省
					明治十年	六月九日	地理局事務	取扱申付候事		内務省
					明治十年	六月九日	内閣勸業博覽會	審査事務	結了存番	
					明治十年	八月廿九日	査官	差免候事		
					明治十年	八月廿九日	内務省御用	撰申付	月俸八拾円給與候事	地理局

七年二月十六日
六年七月廿六日

十四年	四月十日	地質調査所長申付候事	農務局
十四年	五月十日	御用有之左三縣出張申付候事 千葉、栃木、茨城、福島、新潟、宮城	農商務省
十四年	七月九日	地質課長被申付候事	農務局
十四年	七月十五日	任農商務権少書記官	太政官
十四年	七月廿六日	文部省御用掛被申付候事	ク
十四年	八月三十日	東京大学理学部勤務申付為年當一々年 全頁拾日給與候事	ク
十四年	九月十日	第一回内閣勲業博覧會審査事務勉勵 修二行為其賞銅牌志個下賜候事	ク
十四年	九月十日	第二回内閣勲業博覧會審査事務勉勵 為殿内務全貳拾五回下賜候事	ク
十四年	十月一日	叙正七位	ク
十五年	四月六日	今後為年當一々年全貳百五拾日給與候事 御用有之左、縣出張被申付候事 兵庫、岡山、廣島、山口、愛媛、徳島	農商務省
十六年	六月廿四日	御用有之崎玉縣下出張被申付候事	ク
十六年	九月十日	自今一々年全貳百五拾日給與候事	文部省
十六年	三月七日	御用有之愛媛縣下出張被申付候事	農商務省
十六年	七月十日	御用有之左、縣出張被申付候事 長崎、熊本、佐賀、福岡	ク
十七年	二月五日	地質調査所長視察下出張被申付候事	太政官
十七年	二月八日	候事 政洲出張中事取調之儀嘱託候事	太政官
十七年	二月八日	年當一々年全貳百五拾日給與候事 但不在中迄前之年當全廢止候事	文部省

農 務 省

乙

左十七年十月廿四日	文部省御用掛並勤被免候事	太政官
左十七年九月五日	東京大學御用掛並勤被免候事	左
左十七年九月五日	任農商務少書記官	左
左十七年九月十日	為年當一々年令五百圓下賜候事	文部省
左十七年十月五日	兼任東京大學教授	太政官
左十七年十月十日	為年當一々年令五百圓下賜候事	文部省
左十七年十月十五日	叙從六位	太政官
左十七年十一月十日	地質局長心得被仰付候事	農商務省
左十九年三月六日	任農商務省地質局長	内閣
左十七年三月廿五日	兼任理科大學教授	左
左十七年三月廿五日	去十七年米國華盛頓府開設セル本初 子午線並計時法萬回公會決議ニ因テ 意見書審査委員被仰付	農商務省
左十九年四月十日	叙奉任官二等	内閣
	下級俸下賜	農商務省
	叙奉任官三等	内閣
	年俸五百圓下賜	文部省
左十七年四月十五日	御用傑令毎週二時間、東京山林校學生 （土性字教授教シレテ）	農商務省
左十七年六月九日	東京職工學校委員被仰付	
左十七年六月廿五日	地質調査事業上檢上ラ左ノ縣ニ巡回被仰付 （富山、石川、福井、滋賀、岐阜）	農商務省
左十七年七月八日	叙正六位	内閣
左二十年三月三十日	中級俸下賜	農商務省
左十七年四月廿五日	農務局事務並勤ヲ命ス	左
左十七年四月廿六日	四國中國地方巡回ヲ命ス	左

農 務 省

左	二十二年九月九日	農務局事務並勤ヲ免ス	左
左	二十二年九月九日	任農商務省参事官 並担任官二等 教授如故	内閣
左	二十二年九月三日	地質局長心得ヲ命ズ	農商務省
左	二十二年九月二日	中級俸下賜	左
左	二十二年八月廿日	文官普通試験委員ヲ命ズ	左
左	二十二年八月廿日	任農商務省地質局長 並担任官二等 教授如故	内閣
左	二十二年八月廿日	叙奏任官二等	内閣
左	二十二年八月廿日	中級俸下賜	農商務省
左	二十二年八月廿日	四國中國出回ノ序ヲ以テ能本廣見島二縣 下出回ヲ命ズ	左
左	二十二年三月廿日	年俸金三百圓下賜	文部省
左	二十二年六月廿九日	宮城福島茨城千葉栃木群馬長野 七縣下出回ヲ命ズ	農商務省
左	二十二年九月十日	東京市改正委員ヲ命ズ	内閣
左	二十二年十月十五日	京都府及三重愛知ノ二縣出回ヲ命ズ	農商務省
左	二十二年十月廿日	上級俸下賜	左
左	二十二年三月廿日	文官普通試験委員長ヲ命ズ	左
左	二十二年三月廿日	三重愛知ノ二縣下出回ヲ命ズ	左
左	二十二年三月廿日	大分廣島鳥取石川新潟五縣下出回ヲ命ズ	左
左	二十二年八月廿日	群馬縣下出回ヲ命ズ	左
左	二十二年九月廿日	並任農商務省鑛山局長並理科大出回教授 叙奏任官二等	内閣
左	二十二年九月廿日	東京職工學校委員ヲ免ス	農商務省
左	二十二年九月廿日	福岡縣出張ヲ命ズ	農商務省
左	二十二年九月廿日	岡山縣出張ヲ命ズ	農商務省
左	二十二年九月廿日	岡山縣出張ヲ命ズ	農商務省
左	二十二年九月廿日	岡山縣出張ヲ命ズ	農商務省
左	二十二年九月廿日	岡山縣出張ヲ命ズ	農商務省

農 務 省

今廿三年	一月廿五	前郡尾去澤銅山継年期出願處令一際 岡田平太一人ノ願書ニ對シ許可ヲ與ヘ竟 取消ノ違ハルニ至リクハ段不都合ニ付譴責ス農商務大臣 静岡縣下ニ出張ヲ命メ	農商務省
今廿三年	三月廿九	高嶋三也唐津炭山及生野鑛山ニ出願命メ	農商務省
今廿三年	五月廿九	東京工業学校高議委員ヲ命メ	
今廿三年	六月廿一	任農商務省鑛山局長 <small>並理科大臣 兼授地政</small>	
今廿三年	七月廿一	叙任官二等	内閣
今廿三年	七月廿一	叙任官二等	内閣
今廿三年	七月廿一	叙任官二等	内閣
今廿三年	八月十五	鐘業條例元老院議定ニ付レタルニ付内閣 委員ヲ命メ	内閣
今廿三年	十月十八	大阪府及兵庫廣島ニ縣下出願命メ	農商務省
今廿三年	五月廿四	福島栃木兩縣下ニ出張ヲ命メ	内閣
今廿四年	三月廿四	愛媛縣下出願ヲ命メ	内閣
今廿四年	四月十六	萬國測地學協會委員ヲ命メ	
今廿四年	四月廿七	陞叙任官一等	内閣
今廿四年	七月九	下級俸下賜	農商務省
今廿四年	七月九	福岡秋田兩縣下出願ヲ命メ	内閣
今廿四年	七月廿六	依願免兼官	理科大臣
今廿四年	七月廿六	福岡縣下出願ノ序ヲ以テ高島炭坑視察 ヲ命メ	農商務省
今廿四年	八月十六	年俸金貳千五百圓下賜 <small>高島炭坑視察 ノ事ニ付七月廿四日勅令 ノ事ニ付七月廿六日勅令 ノ事ニ付七月廿七日勅令 ノ事ニ付七月廿八日勅令 ノ事ニ付七月廿九日勅令 ノ事ニ付八月一日勅令 ノ事ニ付八月二日勅令 ノ事ニ付八月三日勅令 ノ事ニ付八月四日勅令 ノ事ニ付八月五日勅令 ノ事ニ付八月六日勅令 ノ事ニ付八月七日勅令 ノ事ニ付八月八日勅令 ノ事ニ付八月九日勅令 ノ事ニ付八月十日勅令 ノ事ニ付八月十一日勅令 ノ事ニ付八月十二日勅令 ノ事ニ付八月十三日勅令 ノ事ニ付八月十四日勅令 ノ事ニ付八月十五日勅令 ノ事ニ付八月十六日勅令 ノ事ニ付八月十七日勅令 ノ事ニ付八月十八日勅令 ノ事ニ付八月十九日勅令 ノ事ニ付八月二十日勅令 ノ事ニ付八月二十一日勅令 ノ事ニ付八月二十二日勅令 ノ事ニ付八月二十三日勅令 ノ事ニ付八月二十四日勅令 ノ事ニ付八月二十五日勅令 ノ事ニ付八月二十六日勅令 ノ事ニ付八月二十七日勅令 ノ事ニ付八月二十八日勅令 ノ事ニ付八月二十九日勅令 ノ事ニ付八月三十日勅令</small>	
今廿四年	十月十六	四等官 <small>(警部二百十五番係)</small>	
今廿四年	五月廿一	叙從五位	

乙

今廿四年	三月五日	臨時博覧會事務局評議員被仰付	内	内
今廿五年	三月一日	特別ノ勤勞カナルニ依リ其賞トシテ金五百 円下賜		
今廿年	三月二日	震災豫防調査方法取調委員被仰付		
今廿年	三月三日	静岡縣駿河國庵原郡興津町大字清見寺 小字シビカ沢外一字石炭試掘左縣平民山 梨清六外三名出願ニ對シ昨廿四年七月 廿六日許可セシ處先願者アテテ意見シ終ニ 同人等ニ與ヘシ試掘許可ノ指令ヲ取消シ且 奈良縣大和國吉野郡自銀村大字西新子字 ウレ口山外三字銅鑛借區坑業人岡本徳 永ノ増借區出願ニ對シ昨廿四年十月十五日 許可セシ處先願者アテテ意見シ終ニ同人等		
農 務 省				
今廿五年	三月五日	ニ與ヘシ増借區許可ノ指令ヲ取消シ且 シタル較職務上不注意ニ付譴責ヲ 手當トシテ金五十円下賜		農商務大臣 臨時博覧會 事務局
今廿年	四月廿六日	鑛山監督署會計出納下検査官ノ命		
今廿年	五月廿五日	農商務省所管事務政府委員 被仰付	内	内
今廿年	六月廿一日	帝室財産規程取調委員ヲ帰託ス		
今廿年	六月廿五日	大阪廣島福岡三鑛山監督署管内出願會		
今廿年	六月廿八日	製鋼事業調査委員被仰付	内	内
今廿年	六月廿九日	叙勲六等賜拂上賞章		
今廿年	八月六日	北海道及岩手縣下へ出張ヲ命ズ		
今廿年	九月廿日	横須賀へ出張ヲ命ズ		
今廿年	十月四日	栃木群馬ニ縣下へ出張ヲ命ズ		
今廿年	十月廿日	農商務省所管事務政府委員被仰付		

左廿五年 二月廿日	叙高等官三等	勅令第百六号	
左廿六年 三月七日	九州及四国へ出張ヲ命ズ		
左廿六年 四月一日	依願使本官並並官		内閣
左廿六年 四月六日	湖土等以上在官者千四百五十八拾		
左廿六年 八月廿日	三銭三匁下賜		
左廿七年 四月四日	臨時製鐵事業調査委員會委員被仰付		内閣
左廿七年 五月廿日	同	工被免	
左廿七年 七月十日	工科大学講師ヲ囑託ス		官内省
左廿八年 三月三日	工科大学講師ヲ囑託ス		帝國大学
左廿八年 一月廿日	第四回内閣勸業博覧會審査官被仰付		内閣
左廿九年 二月廿日	第六部長ヲ命ズ		
左廿九年 三月九日	京都本局出張所へ出張ヲ命ズ		
左廿九年 三月廿九日	京都本局出張所へ出張ヲ命ズ		
左廿九年 三月二日	銀盃一個		
左廿九年 八月十日	製鐵事業取調ヲ囑託ス		農商務省
左廿九年 八月十日	臨時博覧會評議員被仰付		内閣
左廿九年 三月三日	製鐵事業取調ヲ囑託ス		農商務省
左三十年 三月廿日	出品之関スル事項ノ調査ヲ囑託ス		農商務省
左三十年 十月六日	任製鐵所長官		内閣
	叙高等官二等		

農 商 務 省

三十年十月廿六	御用有之清國(被派遣)	内閣
三十年二月廿六	製鐵所仕掛命令官ヲ命ス	農商務省
三十年四月廿六	製鐵所江掛命令官ヲ免ス	内閣
三十年五月廿三	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
三十年八月五	岩手縣下、出張ヲ命ス	農商務省
三十年八月九	新潟縣下、出張ヲ命ス	内閣
三十年十一月廿六	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
三十年三月十五	御用有之清國(被差遣)	内閣
三十年三月十六	清國(派遣中手当トシテ)月金貳百圓迄ス	農商務省
三十年四月廿四	御用有之次米各圖(被差遣)	内閣
三十年五月廿六	改米各圖、派遣中手当トシテ)月金參百圓迄ス	農商務省
三十年十一月廿六	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
三十年十一月廿六	陸軍高等官一等	内閣
三十年十一月廿六	叙従四位	内閣
三十年五月廿六	新潟縣下、出張ヲ命ス	農商務省
三十年六月九	御用有之清國(被差遣)	内閣
三十年六月九	製鐵所文官普通徴戒委員長ヲ命ス	農商務省
三十年六月九	叙勲四等授稀寶章	内閣
三十年五月三十	第五回内閣勸業博覧會評議員被仰付	内閣
三十年七月廿九	製鐵所仕掛命令官ヲ命ス	農商務省
三十年七月廿九	第五回内閣勸業博覧會審査第四部長	内閣
三十年七月廿九	被仰付	内閣
三十年七月廿九	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
三十年三月三	文官令限令第五條第四号ニ依リ	内閣

農 務 省

台三五年二月三日 午 年 月 日	休職被仰付 製鐵所江村命令官ヲ免ス 文官懲戒令依リ本官ヲ免ス	内閣
---------------------	--------------------------------------	----

農商務省

乙號